

トキの死亡について

平成 22 年 3 月 18 日 (木)
環境省自然環境局

- 佐渡トキ保護センターの野生復帰に向けたトキの訓練施設（順化ケージ）において、3月10日（水）の朝に、トキ8羽の死亡と、瀕死状態の2羽のトキが確認された。同日中に瀕死状態のトキのうち1羽の死亡を確認（瀕死状態だった残りの1羽は回復傾向）。
- 順化訓練を行っていた個体は11羽で、うち5羽は2月4日から、6羽は同19日から訓練を行っていた。これまでに死亡した9羽（オス2羽、メス7羽）すべての解剖が終了、いずれも喉の骨をかみ砕かれていた。
- 今回の被害は、監視カメラの映像や残された足跡により、テンが順化ケージ内に侵入し、トキを襲ったことによるものと考えられる。
- 順化ケージの金網の網目より大きい箇所は、側面部に235箇所、天井部に30箇所の計265箇所が確認されている。
（網目の大きさ：側面は2.5 cm×2.5 cm、天井は4 cm×4 cm）
- 3月11～12日（木～金）、環境省渡邊審議官を佐渡に派遣、施設状況等の調査、当面の措置等を検討。
- 3月14日（日）、小沢環境大臣現地調査。以下の点を指示。
 - ①構造上の問題の原因を究明すること
 - ②管理体制等の調査・検証をしっかりと行うこと
 - ③侵入経路を特定すること
 - ④繁殖ケージも含め再発防止のための措置や体制について万全を期すこと
 - ⑤今回の事故について中国政府に早急に連絡すること
 - ⑥今後の放鳥計画等については専門家の意見を聞きながら検討すること
- 両面テープにテンの毛を付着させて侵入経路を特定する調査により、3月16日（火）、侵入箇所の一つを特定。同調査及び捕獲努力は継続中。
- 3月16日（火）、トキ飼育繁殖専門家会合を佐渡市で開催。今回の事故原因と再発防止策等について、現地調査の上、意見を伺った。（→別紙参照）
- 順化ケージの隙間を埋める工事等については鋭意実施中。
- 大臣のご指示により、今回の事故を検証するため、施設等の専門家も加えた委員会を設置することとし、新潟県と調整する。

第 1 1 回 トキ飼育繁殖専門家会合の結果概要

日 時：平成 2 2 年 3 月 1 6 日（火）14:00～16:45

場 所：トキ交流会館（新潟県佐渡市）

主な議論：次のとおり

1. 順化ケージでのトキの死亡について

- ・ 今回の経過、順化ケージの調査結果、これまでに外敵が順化ケージや繁殖ケージに侵入した事例、繁殖ケージに新たに行った対策、当面実施する対策について報告した。
- ・ 委員からは次の意見が出された。
 - ・ 外敵の進入防止対策は、これまで動物園が行っている対策を参考にするとよい。
 - ・ トキの様子監視はモニターに頼るだけでなく、人の目で見ることが大事。
 - ・ 危機管理上からもトキの分散飼育を進めることが大事。今回の件の対策を分散飼育地でも情報共有し、各地でも対策を行うこと。
 - ・ 設計、施工時の検討経緯や現場の管理体制等を検証すること。
- ・ 野生生物課長より、大臣の今回の事故を検証する委員会の設置についての指示を受け、事務方としても新潟県と調整していきたいと報告。

2. トキの飼育繁殖計画等

- ・ 平成 2 2 年度の繁殖期は、佐渡トキ保護センター、多摩動物公園及びいしかわ動物園で 2 1 ペアによる繁殖に取り組み、増加見込み羽数を 4 4 羽とすることについて了承された。
- 【参考】平成 2 1 年度は佐渡及び多摩の 1 8 ペアから 4 3 羽増加

3. トキ飼育繁殖の基本的考え方

- ・ 資料配付のみ

4. 分散飼育実施地の状況

- ・ 石川県、出雲市、長岡市より現在の状況について報告があった。

5. 佐渡市トキ普及啓発実施計画

- ・ 佐渡市より、当初の予定どおり「トキふれあい施設」の設置計画を推進する旨説明があった。

6. その他

- ・ 野生下でのトキの繁殖に関する状況について説明した。

以 上

トキの野生復帰の取組

1 野生復帰を予定する地域

佐渡島 小佐渡東部を中心とする地域



2 野生復帰ステーションと周辺環境

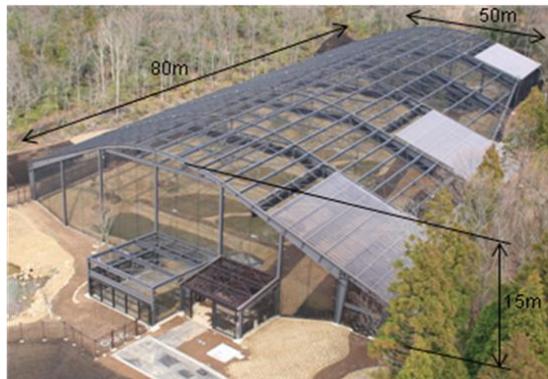
○野生復帰ステーション全景 (佐渡市新穂正明寺地区)



3 野生復帰ステーションにおける訓練

- 採餌（探して食べる）、○飛翔（自由に飛ぶ）、○社会性（群れを作る）
- 天敵回避（逃げる）、○繁殖（産み育てる）

【順化ケージ】



外観



内部環境

【繁殖ケージ】



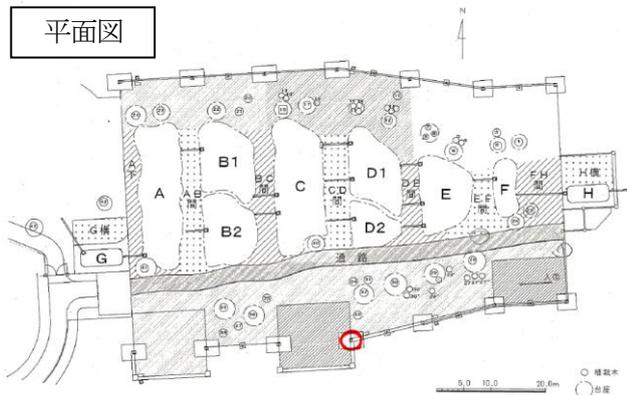
外観



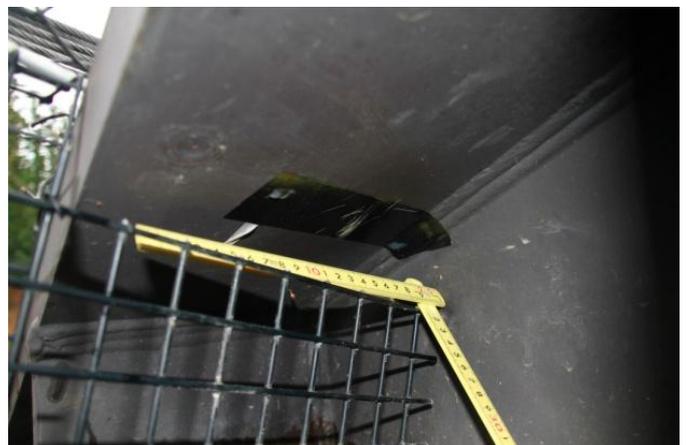
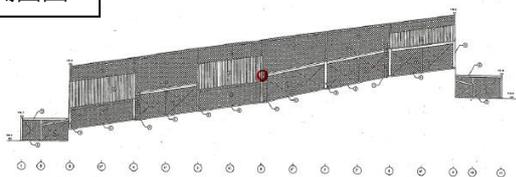
内部環境

(※) 16日に発見されたテンの侵入経路

平面図



側面図



トキ保護に関する取組みの概要

1. トキについて

(1) 学名・分類

Nipponia nippon (Temminck, 1835)

コウノトリ目 トキ科 トキ

(2) 保護に関する指定等

- ・国内希少野生動植物種 (種の保存法)
- ・野生絶滅 (日本版レッドリスト)
- ・特別天然記念物 (文化財保護法)
- ・国際保護鳥 (国際鳥類保護会議 (ICBP))
- ・絶滅危惧 (IUCN版レッドリスト)
- ・ワシントン条約 附属書I掲載種

(3) 我が国のトキ個体数の推移

1950年 野生35羽に減少

1967年 佐渡トキ保護センター設立

1981年 最後の野生のトキ5羽を全て捕獲、人工繁殖に本格着手

1995年 日本産トキ1羽にまで減少

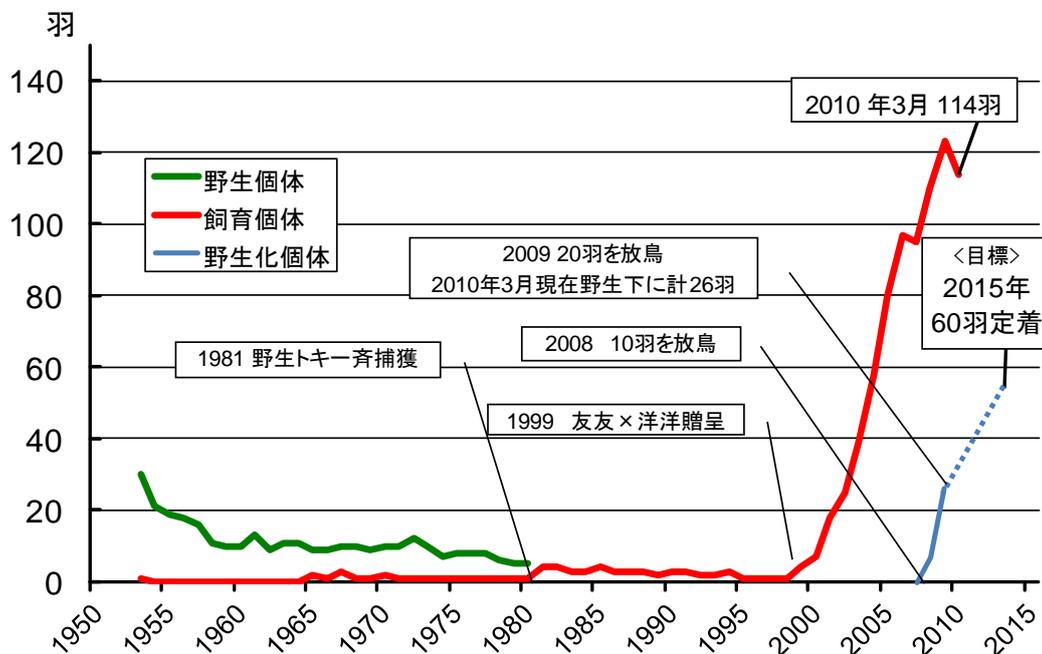
1999年 中国から贈呈された友友・洋洋の間に優優が誕生

2000年 優優のパートナーとして美美が中国より到着

2003年 日本の野生生まれ最後のトキ「キン」死亡

2007年 中国から2羽のトキ、華陽、溢水が到着

2010年 3月11日現在、飼育下に114羽



2. トキ野生復帰の取組

(1) 目的 トキの生息地であった佐渡島において、トキの生息に適した環境を整えたうえで再導入を図り、自然状態で安定的に存続できるようにする。

(2) 目標 2015年頃 小佐渡東部地域に60羽のトキの定着

(3) 経緯

2004年 種の保存法に基づくトキ保護増殖事業計画を改訂
(トキ野生復帰に必要な取組を新たに位置付け)

2007年 トキ野生復帰ステーション竣工、野生順化訓練開始

2008年 9月25日、10羽を試験放鳥(1羽死亡、2羽不明)

2009年 9月29日、20羽を放鳥(1羽回収)※ソフトリリース

(4) 野生復帰を予定する地域

佐渡島 小佐渡東部を中心とする地域

(5) 野生復帰の訓練(野生復帰ステーション)

飼育下のトキが自然状態で自立して生存できるよう、採餌、飛翔、社会性、天敵回避、繁殖の訓練を実施。



野生復帰ステーション 順化ケージ

(6) 自然再生の取り組み(生息環境の整備)

トキ及びトキのエサとなる生物の生息環境の保全・再生に地域住民、佐渡市、新潟県、関係省庁が取り組んでいる。



住民団体によるピオトープの整備



生き物の避難場所となる「江」の設置



営巣木の保全

(7) 野生復帰目標

「2015年頃に、小佐渡東部に60羽定着」